

平成 29 年度(2017 年度)研究業績

1. 研究発表

No	発表者	発表課題名	発表学会等	年月
1	中島正明・浦田貴子・中野裕一郎	トウキの育苗管理の違いが出芽率、苗質に及ぼす影響	園芸学会九州支部研究集録 第25号:77	2017年9月
2	中野裕一郎・中島正明・浦田貴子・石橋哲也ら	ハンモック式栽培槽における培地冷却方法の違いが夏秋期の四季成り性イチゴの収量に及ぼす影響	園芸学会平成29年度秋季大会 園芸学研究第16巻別冊2:421	2017年9月
3	中野裕一郎・大坪竜太ら	イチゴ‘さがほのか’の先絞り果(仮称)発生要因と対策	園芸学会平成30年度春季大会 園芸学研究第17巻別冊1:157	2018年3月
4	田代暢哉・尾形綾子・正司和之・佐藤豊三	<i>Colletotrichum fioriniae</i> によるカンキツ炭疽病の発生	日本植物病理学会報 83:184	2017年8月
5	田代暢哉・浦川(尾形)綾子・正司和之・松尾洋一	<i>Rhizopus oryzae</i> によるカンキツ黒かび病(病原追加)	日本植物病理学会報 84:66-67	2018年2月
6	田代暢哉・正司和之・川内孝太・松尾洋一	タマネギべと病の二次感染予防剤に対するカチオン系展着剤の加用効果	九州病害虫研究会講演要旨集	2018年2月
7	田代暢哉・正司和之・松尾洋一ら	タマネギべと病の本圃における一次感染時期の推定	平成30年度日本植物病理学会大会講演要旨集	2018年3月

2. 刊行物（ホームページでも公開）

No.	刊 行 物 名	年 月
1	平成 28 年度業務年報	2017 年 5 月

3. 論文・著書・解説

No.	著 者	題 名	掲載誌	年 月
1	Tashiro N. Nita M.	Synergistic effect of a mixture of benzimidazole and iminoctadine triacetate for the preharvest control of benzimidazole-resistant <i>Penicillium digitatum</i> , a causal agent of citrus green mold in Japan	Citrus Pathology (Chapter 5, published by InTech) pp. 91-119	2017 年 4 月
2	中島正明	上場地域の畑作物・野菜の増収を目指して	佐賀の野菜 7 月号 pp. 22-24	2017 年 7 月
3	田代暢哉	年内防除による一次伝染株発生抑制効果	タマネギベと病対策マニュアル Ver. 2 pp. 26-29, pp.34-38	2017 年 10 月

4. 公表した研究成果情報

No.	情 報 名	担 当
1	冬どりタマネギ夏育苗ではネギ用培土を用いると肥料の混合作業が省力化される	畑作・野菜
2	冬どりタマネギ夏育苗の吸水マットを利用した苗質向上と根鉢形成促進	畑作・野菜
3	冬どりタマネギ夏育苗の追肥による苗質向上	畑作・野菜
4	冬どりタマネギ夏育苗中の剪葉は 10~18cm で 2 回までとする	畑作・野菜
5	トウキのペーパーポット育苗は、頭上散水することにより出芽率が向上する	畑作・野菜
6	ハウスミカンにおける天敵製剤スワルスキーカブリダニ成虫の各種農薬に対する感受性	畜産・果樹
7	早生ウンシュウミカンにジベレリンとジャスモンメート液剤を混用散布すると浮き皮の発生が抑制されるとともに、収穫1か月後まで果実品質が維持される	畜産・果樹